

## 5 . 提 言

### 5 - 1 組織面

北京消防訓練センターの組織としての自立性と機能を高めるために、訓練センターの常勤定員に制度的な根拠を与え、北京市消防局内で十分な数を確保する必要がある。また、今後増えていく研修を円滑に実施するため、教務課のような研修運営管理の部署が設立されることが望ましい。

### 5 - 2 運営管理面

(1) プロジェクト・デザイン・マトリックス(PDM)の補足資料として現在検討中である分野別の長期の技術移転計画を早期に完成することが必要である。

(2) プロジェクトの運営管理において重要なモニタリングを強化する必要がある。具体的には、主に日本側専門家と中国側責任者(カウンターパート)により構成される定例会議を週1回程度開催すべきである。また四半期報告の作成をよりPDMに連結したものにし、またその書式を日中双方で共有することが望ましい。さらに、合同調整委員会も年1回開催すべきである。

### 5 - 3 技術面

#### (1) 全般

- 1) 予防関係分野の研修実施にあたっては、北京市消防局防火部の政策判断によるところが大きいため、同部の十分な理解と日本側専門家との十分な協議の機会をもつことが必要である。
- 2) 各分野における目標達成のために、専門家の派遣に合わせた十分なカウンターパートの配置を行ったうえで、受講性の明確化とそのニーズ把握を十分に行うべきである。また、研修終了後の評価も毎回行う必要がある。
- 3) 機材の保守管理について、各分野において、責任者の配置や定期点検の実施などの体制を整えていくべきである。

#### (2) 分野別

##### 1) 消火戦術及び技術訓練分野

内容がさらに複数の分野(一般消火戦術・指揮戦術・救助技術)に分かれているので、各分野ごとの明確な研修計画を作成する必要がある。

##### 2) 防火検査と監督分野

本分野は予防分野の総括的な位置にあることから、チーフアドバイザーの兼任ではな

く、長期専門家1名を新たに派遣し、他の予防分野についてのフォローも併せて行うことが望ましい。

カウンターパートについては、予防業務全般を経験した人材が配置されることが望ましい。

### 3) 市民防火防災教育指導分野

市民教育に関し、来客数に対応可能なだけの専従職員の配置が必要である。

防災館の機材については、今後の活用状況を見極めたうえで、増強を検討する必要がある。

### 4) 危険物防火安全管理分野及び消防設備操作及びメンテナンス分野

プロジェクトに関連して、近い将来消防設備や危険物管理に関する資格制度が整備されることが予定されているので、こうした状況を勘案しながら、カリキュラムの作成などを進める必要がある。